

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予察注意報第2号について

注意報 第2号

イチゴ炭疽病の潜在感染状況を調査した結果、潜在感染株率は昨年同様、高い状況でした。本年は梅雨期間（6/5～7/9）までの断続的な降雨と6月下旬以降の高温で、炭疽病の感染に好適な条件が続いており、すでに本病が発生しているほ場もあります。

今後も高温・降雨により本病の感染拡大が懸念されますので、防除の徹底を指導願います。

イチゴ

1 病虫害名：炭疽病

2 発生地域：県下全域

3 発生時期：早

4 発生量：多

5 注意報の根拠

(1) 7月2半旬に県下20か所の育苗床の苗から小葉を採取し、エタノール浸漬法による炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率・ほ場率ともに、本調査を開始して以来、2番目に多かった。

・潜在感染株率 40.3%（前年 52.9%、過去5か年平均 25.1%）

・潜在感染株確認ほ場率 95.0%（前年 100%、過去5か年平均 72.7%）

(2) 7月5半旬に巡回調査を行った結果、発生株率は前年・過去7か年平均並で、発生ほ場率は前年並、過去7か年平均より高かった。

・発生株率 0.30%（前年 0.39%、過去7か年平均 0.27%）

・発生ほ場率 19.0%（前年 18.2%、過去7か年平均 8.8%）

(3) 向こう1か月の気象予報（7月22日付福岡管区气象台発表）では、気温は平年並、降水量は平年並か多いとされている。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場をこまめに見回り、発病株及びその周辺株は速やかに除去・処分する。
- (2) 降雨、台風の前後や摘葉後に薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (3) 急激な肥効は発病を助長するので肥培管理に注意する。
- (4) 雨よけビニルや寒冷紗を被覆しているほ場では風通しを良くする。
- (5) 低温処理時の注意事項
 - ア 夜冷短日や低温暗黒処理は、株へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、必ず健全苗を用いる。
 - イ 入庫する際は過湿を防ぐため、苗を詰めすぎないように注意する。
 - ウ 株冷入庫前、陽光処理時のかん水は、過度にならないように注意する。

表 エタノール浸漬法によるイチゴ炭疽病の潜在感染株率の調査結果

(単位：%)

調査地点		本年	前年
本所	糸島市	20	40
	福津市	0	15
	久留米市 1	10	30
	久留米市 2	5	25
	筑前町	40	30
	飯塚市	25	55
	福智町	10	85
筑後支所	八女市	35	50
	筑後市	20	85
	大川市	10	75
	みやま市	90	100
	大木町	20	55
	広川町 1	75	50
	広川町 2	100	25
行橋支所	岡垣町 1	35	75
	岡垣町 2	40	85
	行橋市	35	26.9
	豊前市 1	60	45
	豊前市 2	75	85
	みやこ町	100	60
潜在感染株率平均		40.3	52.9
潜在感染株率過去5か年平均値		25.1	
潜在感染株確認ほ場率		95	100
潜在感染株確認ほ場率過去5か年平均値		72.7	

注1 調査地点は、イチゴ育苗期定点調査ほ場 20 か所

1 地点 20 株、1 株当たり 2～3 枚を採取

注2 処理日：7月11日 判定日：7月25日 (28℃で2週間静置)

注3 前年の潜在感染株率平均は 21 か所の数値